

2010年1月21日  
東日本旅客鉄道株式会社

「地域再発見」プロジェクト推進中！

## ～ 地元発。とれたての感動！ 地元が提案する旅 「旅市」<sup>たびいち</sup>モニターツアーを実施します～

JR東日本では昨年より、地元の人を考え、ご案内する新しい旅行商品「旅市(たびいち)」を発売しています。

今回は「旅市」の魅力をもっと多くの方に知っていただき、参加されたお客さまの意見を今後の商品作りに活かすためにモニターツアーを実施します。

1泊2日(往復交通+宿泊+観光・体験)で、おとなお一人様10,000円の価格で、500名のお客さまを募集します。

### 「旅市」モニターツアーの紹介

現在発売中の「旅市」商品の中からオススメする5コース(別紙参照)をモニターツアーとして設定します。お客さまにはこの5コースの中から希望するコースを選択して応募いただきます。

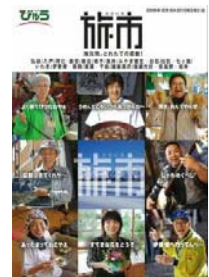
応募は専用のホームページ(<http://www.jreast.co.jp/tabiichi/mt/>)から申込みいただきます

- ・募集人数 500名(各コース定員100名) 申込みは1名様ないし2名様で承ります
- ・募集期間 平成22年1月22日(金)10:00～1月31日(日)23:59
- ・旅行期間 平成22年2月26日(金)～3月14日(日)出発 1泊2日 除外日あり
- ・旅行代金 東京・上野・大宮駅発着お一人様10,000円(おとな・子ども同額)

申込みが定員を超えた場合には抽選の上、当選者を決定いたします。当選のお客さまには郵送にて当選案内をお送りいたします。参加のお客さまには簡単なアンケートにご協力いただきます。

### 「旅市」とはこんな旅です

「地域に根ざした風土・文化」、「地産地消」、「人とのふれあい」をコンセプトに、宿泊施設や昼食箇所、ガイドなどに携わる地元の全ての人々が、お客さまに一番おすすめできる過ごし方を提案する旅です。「旅市」という言葉には「人が集う市に新鮮な野菜が並ぶように、地元の人がおすすめる観光素材を集めた」という意味を込めました。



モニターツアー募集の詳細につきましては専用ホームページにてご案内いたしております。

<http://www.jreast.co.jp/tabiichi/mt/>

「旅市」モニターツアー各コースのご案内

<共通のご案内>

いずれのコースも東京・上野・大宮駅から出発する往復の交通、宿泊、現地での体験・観光メニューが代金に含まれております（一部お客さまにご負担いただく場合がございます）。

【1】青森県/弘前コース『りんごの香りと心に響く津軽三味線を満喫』

藍染め体験、旅市ガイドとめぐる冬の弘前

岩木山に見守られた北国の城下町・弘前。りんごの甘い香り漂う選果風景を見学し、伝統の天然藍染めにチャレンジ。厳しい風土の中で育まれた本場の津軽三味線の演奏は津軽の景色とともに心に残る思い出になるはずです。

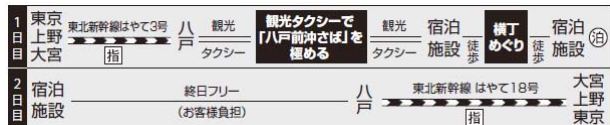


【2】青森県/八戸コース『活気あふれる港町・八戸 横丁の旨いものめぐり』

観光タクシーで「八戸前沖さば」を極める

毎日、新鮮な魚介類が水揚げされる東北有数の港町・八戸。なかでも脂ののった「八戸前沖サバ」は、地元の人たちが誇るブランド食材です。

また、レトロなネオンが郷愁を誘う「横丁めぐり」も八戸ならではの過ごし方。あたたかい人情に触れてください。



【3】宮城県/みやぎ蔵王・白石コース『城下町白石と宮城蔵王 ホットなふれあい』

こけしの里・遠刈田温泉でこけしの絵付け体験

白石では、伊達家の名参謀・片倉小十郎の足跡をたどり、職人の情熱と郷土愛が込められたヘルシーな「うー麺」をいただきます。

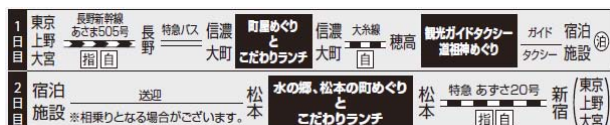
さらに、こけしの里で名を馳せる遠刈田温泉でこけしの絵付け体験とゆったり湯浴みを楽しみます。温泉情緒と義理人情に触れられる2日間の旅です。



【4】長野県/信濃大町・安曇野・松本コース『人々の生活を守り続けた北アルプスの湧き水と松本水めぐり』

水と道祖神めぐり

北アルプスの“水”の恵みをめぐる、とっておきの旅。水源の異なる男清水と女清水が味わえる信濃大町からスタートし、道祖神の微笑む安曇野を経て大町と並ぶ水の郷、城下町松本へ。地酒や蕎麦、漬け物、味噌などを生み出し信州の暮らしを支えてきた水を味わってください。



【5】新潟県/越後湯沢コース『川端康成の小説「雪国」の世界を訪ねて』

小説「雪国」ゆかりの地散策と「かすみの間」で執筆体験

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった...」ではじまる小説『雪国』、その舞台である越後湯沢では『雪国』が執筆された宿に宿泊します。

小説ゆかりの地散策と川端康成が執筆していた「かすみの間」で執筆体験。

越後湯沢の名湯と名作に触れる文学旅へどうぞ。

